

## 1 開会行事

### (1) 高教研情報部会挨拶（東温高等学校 千葉 昇）

3月には新学習指導要領が公示された。国語の新課程の中に、「論理国語」という科目が選択科目である。国語の科目の中にも論理的な思考力がより求められている。情報で扱うアルゴリズムも同じく論理的思考が求められる。こうした力は、表現することや、文章を考えるうえでも役立つ力であると考えている。情報部会は数学、理科、商業、家庭科の先生方など、様々な教科の先生方が揃う、多様性のある部会である。この多様性を生かした情報教育を推進していただきたい。先生方の活発なご意見のもと、充実した会になるよう、よろしく願います。

### (2) 愛媛県教育委員会挨拶（愛媛県教育委員会高校教育課 指導主事 野村 竜也）

新教育課程の公示や、新聞でも報道していた大学入試に入る情報の内容など、多数のことが気になる場所であると思うが、まず兵庫県立大学の竹内和雄准教授の講演について取り上げる。この講演であったキーワードに「デジタルネイティブ2世」というものがある。「デジタルネイティブ」という言葉を聞き始めて、まだ真新しいが、もう2世という言葉が出てきている。竹内先生が兵庫県のある町で調査をしたところによると、小学校高学年の携帯電話の所持率が40%前半であるのに対して、低学年の所持率は50%近く、逆転現象が起こっている。調査を進めていくと、保護者の多くが、中学生から携帯電話を持たせる、いわゆる「デジタルネイティブ1世」である。そうした1世から育てられた子供は、生まれた時から家に固定電話がない、携帯電話が2台持ちという世代であり、小さい頃から携帯電話を持つことが当たり前になっている。さらに調査を進めると、様々な結果において、やや問題のある項目のあるにおいて、小学生の数値が中学生よりも高いことが見られる。つまり「デジタルネイティブ2世」に注意が必要である、という内容であった。先ほどの新学習指導要領と紐づけていくと、新学習指導要領の実施される2020年度の高校一年生は現在では小学校六年生である。つまり、デジタルネイティブ2世に差し掛かろうとしている世代から新学習指導要領があるということである。プログラミングなど科学的な理解も必要であるが、いわゆるモラル指導についても軽視できない現状である。教科「情報」を担当される先生方におかれましては、これからの世代を育てる重要な立場にあり、期待が大きい。本日は幅広い視点から情報交換のできる会にさせていただき、充実した会になることを祈念して挨拶とする。

### (3) 会場校校長挨拶（新居浜南高等学校 校長 山本 公治）

平成30年度高教研情報部会総会並びに研究協議会の開催にあたり、会場校として一言ご挨拶申し上げます。各校におかれては、県総体を直前に控え大変忙しい時期と思う。遠くは南宇和高校をはじめ、県下各地より、この新居浜南高校にお越しいただき、本県の情報教育の充実のために協議いただくこと、大変ありがたく思う。

私が教員になり初めて購入したパソコンは、CPUのクロック数が10Mhzであった。今は、技術の進歩により、その処理能力は1000倍以上になっているかと思う。初めて手にした携帯電話はモノクロ画面であったが、今のスマートフォンのようにになるとは想像すらできなかった。数年前、「情報」

の授業を担当していたとき、生徒に対して「君たちの持っているスマホは、君たちの子供が高校生になる頃には、100円均一で売っていると思うよ」と話していた。ドラえもんの四次元ポケットはできないと思うが、AIの進化など、この先も想像できないほどの変化をする分野であると思う。

学校で学ぶ教科で、生きていく上で最も大切な教科は家庭科と保健である、と言われた先輩教師がおられた。今は、それに加えて「情報」が重要な役割を持っている教科であると考えている。先日、安部首相が、「情報」を主要教科に位置付け大学入試にも取り入れる方向で検討するとの見解を示していたが、今の教育改革に加え注目したいと思う。次から次へと新しい技術が生まれ、教科書の改訂ごとに指導内容が進歩する教科であって、指導者も学び続けなければならないと思うが、頑張ってもらいたい。

校務支援システムも導入され、ますます忙しくなる方もおられるかと思うが、体に気を付けて、協力しながら進めていただきたい。

最後に、本日の研究協議会が皆様にとって実り多い会となることを祈念して、会場校挨拶とする。

## 2 総会

### (1) 支部幹事報告

#### ア 東予支部

役員について、原案通り承認された。また今後の研究発表校について、平成32年度の発表校を弓削高校、33年度の発表校を今治北高校として案が出され、承諾と承認を得た。協議の中で、校務支援システムの活用などについての情報交換を行った。

#### イ 中予支部

役員について、原案通り承認された。高教研大会発表校について、平成33年度は東温高校、平成34年度は松山西中等教育学校として案が出され、承諾と承認を得た。

#### ウ 南予支部

役員について、原案通り承認された。今後の研究発表校については、平成17年度から順に当てはめていく。情報交換の中で、クラッシーなどを使っている学校の実施状況についてなど話し合った。

### (2) 議長選出

議長を東温高校 千葉 昇 校長先生にお願いした。

### (3) 議事

#### ア 情報部会会則確認

現行の会則について確認を得た。

#### イ 平成29年度事業報告

資料の通り承認を得た。

#### ウ 平成29年度決算報告

資料の通り承認を得た。

#### エ 平成29年度監査報告

決算報告が正当なものであると監査より述べられた。

事業報告、決算報告、監査報告について承認を得た。

オ 平成30年度役員（案）について

会長・監事について、原案通り承認された。

各支部から報告された支部長、副支部長、支部幹事、加えて部会幹事、部会副幹事、顧問について会長より委嘱された。

カ 平成30年度事業計画（案）審議

資料の通り承認された。

キ 平成30年度予算（案）審議

資料の通り承認された。

ク その他

平成29年度から平成31年度までの研究主題として「主体的・対話的で深い学びを通じた、問題の科学的理解・解決に取り組む資質・能力の育成」を基に進めていること、また来年度の本会の会場校が南予地区の予定であることについて報告した。

次に提案として、現在中予地区に属する大洲喜多地区（大洲、内子、長浜、大洲農業、小田）を南予地区として扱う件と、来年度以降の高教研大会研究発表校を3校から2校とし、4年間で「東中、中南、東中、東南」という順番で進めていき、今年度は中南の予定である件について取り上げ、承認を得た。

### 3 研究協議会

(1) 授業研究（司会：松山南高等学校 教頭 重松 聖二）

ア 授業者自評（新居浜南高等学校 教諭 坂上 孝敏）

準備期間が短く、もっと良い授業を見ていただきたかった。生徒には、私の情報の授業で最も大事なものはメディアリテラシーだと教えている。今回の授業のコンセプトは、OECDの15歳までに身に付けるコンピテンシーについてである。今回はメディアリテラシーを指導するために演劇という方法を取った。感情を作ってから演劇をすることが西洋の演劇であるが、感情は再現できないものとして、授業では役柄を与え、言葉を発し、対話を促し、乗り越えるべき壁を気づかせようとした。ただし、反省点としてアイヌ民族の役割を与えた生徒が十分に自分の役柄を理解できていなかった。今回の実践例は、すべての学校で取り組めることであると考えている。習熟度がかかり開いている生徒間であっても、むしろ分からず屋の生徒がいるからこそ、対話することで解決し、前進していくことができる。これが目的であり、我々が求める生徒を育てる方法であると考えた。後半についてはかなり詰め込んでしまった。GoogleのBlocky Gamesという、フローチャートを使ってアルゴリズムを学べるメソッドを紹介した。先生方にすぐにでも授業で使ってもらえるものを用意したつもりである。このメソッドができるようになると、丸暗記でなく構造化による理解を促すことができる。密度の濃い授業を目標とした。ご意見、ご感想をお願いします。

イ 質疑応答

- これまでに見たことのない情報の授業を拝見することができ、大変勉強になった。何点か質問をする。演劇の討論テーマとして、たばこをいう題材を選んだ理由は何であるか。また朗読劇

の台本はどこから用意したのか。教えていただきたい。（北条高等学校 教諭 高智 英彰）

- 台本は自作である。たばこを取り上げた理由は、情報源としてNHKのBSの世界ドキュメンタリーで、国際たばこ産業が取り上げられていたのを拝見したことである。インドネシアの現状を見て、親が子どもをたばこから守っていない現状を何とかしたいと考え、授業で取り扱うことにした。教材を通して、法律の大切さや、大人が子どもを守る必要性について気づかせたいという思いがあった。（新居浜南高等学校 教諭 坂上 孝敏）
- 刺激的な授業であった。道徳に関する内容など、ホームルームでも活用できそうな教材を拝見した。1つ質問であるが、グーグルのBlocky Gameについて、10分間でレベル10まで実施するというが、どれくらい生徒はできるようになるのか、習得の状況などを教えていただきたい。（南宇和高等学校 教諭 古田 賢司）
- 昨年度の体験入学で初めて取り扱った。10分の説明の後に取り組みさせるが、1時間の授業では最後までできない。見ていると、とりあえず闇雲にアルゴリズムを作る生徒がたくさんいる。繰り返す中で少しずつ習得していくように感じている。台本は自作である。たばこを取り上げた理由は、情報源としてNHKのBSの世界ドキュメンタリーで、国際たばこ産業が取り上げられていたのを拝見した。インドネシアの現状を見て、親が子どもをたばこから守っていない現状を何とかしたいと考え、授業で取り扱うことにした。教材を通して、法律の大切さや、大人が子どもを守る必要性について気づかせたいという思いがあった。（新居浜南高等学校 教諭 坂上 孝敏）
- Blocky Gamesについて、これを実践することで、プログラミングの順次、選択、繰り返しについてはどれくらい習得できるのか、またさらに応用的なアルゴリズムも学べるのか教えていただきたい。コンピュータからの出力をする方法として、ラズベリーパイしか存じない。（伊予高等学校 教諭 森山 剛）
- サブルーチンなども学びたい、学ばせたいのならば、スクラッチなどを取り入れたほうがよい。中学生は実際にロボットなどを動かし制御させる。ラズベリーパイはとても良い。環境として十分である。（新居浜南高等学校 教諭 坂上 孝敏）
- 社会と情報を選択されていることについて、メディアリテラシーの指導を考えて選択されているのか。またプログラミング教育について先生はどのように進めていきたいと考えているか。考えている言語などあれば教えていただきたい。（済美平成中等教育学校 教諭 小田 祐太郎）
- より良い人間社会を作るために大切なものは、メディアリテラシーであると考えている。報道機関が内容に責任を取ることを期待できない。インターネットによって双方向になるメディアが浸透すればするほど、メディアリテラシーがなければ生きていけない社会になると考えている。

ありとあらゆる言語があるが、やりたければ BASIC で十分であると考えている。C 言語の構造化の理解などは難しく、生徒の中には座標を理解できない者もいる。参考として、シーモア・パート教授が書いた、マインドストームという本がある。MIT でスクラッチを進めている教授の本である。プログラミング教育の参考にしていただきたい。

(新居浜南高等学校 教諭 坂上 孝敏)

- 授業の終わりに、次の授業では教科書に戻ると伝えていたが、普段の授業はどのような形態であるか。本校では私も授業を担当しており、10 分程度のタイピング練習と、教科書の展開を学習ノートにまとめるという流れで現在は進めている。(今治東中東教育学校 教諭 井出 博文)
- タイピングはほとんどしない。自分でできることを自分でするのが反転学習であり、アクティブ・ラーニングである。教科書を説明し、ノートに記録するときは、構造化して記録するよう指導している。本意ではないが、添付した資料のようなノートの資料を配布している。タイピング指導については、手元を見ずに、ホームポジションの F と J の位置を自覚し、好きな言葉のフレーズを 2 週間打ち込ませれば必ず習得できる。なるほどタイピングというネットのものを利用している。

・講評 (総合教育センター 指導主事 松田 智也)

先生の持つ知識量を取捨選択し、難しい内容を分かりやすい言葉で伝え、説得力がある授業であったと思う。映像やゲーム、劇などの多様な方法を使い、生徒に示しながら認識させていたことが印象的である。特に対話を重視していたことは他の先生方にも大いに参考になる部分であると思う。生徒たちに言葉を掛けながら授業を展開しており、難しい内容であったが生徒は楽しく前向きに取り組んでいるように感じた。またプログラミング教育の指導についても、一つの在り方を示していただいた。今回の教材は、視覚的に理解しやすく、小学生にも理解できる内容であるため、高校生にとってもわかりやすい内容であった。参考までに、今年の 3 月にプログラミング教育の手引きが文部科学省よりまとめられている。簡単な音楽を作る、計測をする、ボタンを押すと電気がつくなどといったプログラムを、スクラッチのようなブロックを使ったプログラミングで示している。中学校になると計測や制御も内容に加わり、高校では更に深化した内容になるかと思う。いずれ新教育課程で内容やそれに準じた教科書もまとめられる。現状では、先生方には今日の授業で示されたような教材の研究や、昨年松山西中等教育学校で濱岡先生が指導された VBA などの研究を参考に、試行錯誤しながら研究を進めていただきたい。

(2) 研究協議 (司会：新居浜東高等学校 教頭 十亀 英樹)

ア 考査 (筆記・実技のバランス) や、その評価について (三瓶)

先生方がどのように実施されているか、アドバイスも含めていただければありがたい。

業者のテストを使っている。教科書を読まない小テストができないため、動機付けとしての意味もある。また先生方の連携がとりやすいというメリットもある。

(新居浜南高等学校 教諭 坂上 孝敏)

1年生で社会と情報の科目を習熟度別で実施している。考査については問題を基本的に統一している。内容は教科書をもとに、学習ノートの内容どおりの考査を作成している。語群を調整するなど、クラス間の差があまり出ないように工夫をしている。評価は考査が成績の5割、残りはタイピングの練習や作品、officeなどの提出課題を5割の評価としている。

(川之江高等学校 教諭 村上 圭次郎)

4クラス実施しており、教科書準拠のノートを使い、教科書などを読みながら進めていく。学期に1回ずつ考査を行っている。実技は商業教員の協力を得て、グラフ作成や計算などの実技テストを作ってもらい、実施している。プログラムの実技テストは難しいが、去年はExcelのマクロ機能を使ったテストを実施した。生徒は教科書の通りに覚えていて、結果はある程度良かった。普段の授業ではタイピングも実施しているが、評価については自己評価で、科目の評価に直接つながっているわけではない。

(八幡浜高等学校 教諭 水成 洋)

#### イ 教科「情報」におけるアクティブ・ラーニングの実践例について (西条)

本校ではアクティブ・ラーニングの拠点校として集団やペアで一つの問題に対しての新たな気づき、PDCAサイクルを活用してさらなる改善点や疑問点を見いだすことを目標に取り組んでいる。他校の実践例について教えていただきたい。

去年三島にいたときの話になるが、グループ学習の後、振り返りシートを用意し、授業内容について理解できたか自己評価と関連する問題を用意し、グループでもう一度解くことを行った。

(三島高等学校 教諭 谷脇 翔)

本校は1学期にWord、Excelを一人で授業を行っている。できた生徒ができていない生徒を教えていこうという形で、1学期は技術を身に付けることとしている。2学期は調べ学習とPowerPointである。PowerPointの操作についても、友人間の教え合いや相互評価を取り入れている。評価の後に、どのような内容が良いか考える機会を設けている。私の評価と生徒の評価の平均点を1:2の割合で評価にExcelを使ったシミュレーションやAccessなどでも、基本的にはどの単元でも教え合いを実施している。

(新居浜西高等学校 教諭 立野 潤)

1学期はWord、2学期はPowerPoint、終わったらExcelを実施している。教え合いは導入している。プログラミング学習について、ExcelのVBAを用いて指導するとき、クラスで10人くらいの集団を作り、それぞれの班でプログラムを作らせた。うまく完成できたのは1、2班程度であったが、目的持ってお互いに協力しながら作り上げることができたように思う。

(今治西高等学校 教諭 渡邊 一郎)

去年の話であるが、実習の旅に、グループになって話し合ったり、実習をグループで行ったり

ということを行った。取り立ててアクティブ・ラーニング用の教材を作るとことはしていない。従来の実習をグループで取り組ませている。「アンプラグドコンピュータサイエンス」という書籍の教材を活用したりもした。  
(伊予高等学校 教諭 森山 剛)

昨年度の情報部会誌に私の研究があるので参考にさせていただきたい。コンピュータウイルスについて調べ学習を行い、PowerPoint にまとめて発表させた。自己評価カードなども作成し、今年度も実施できる内容は実施していきたい。  
(八幡浜高等学校 教諭 水成 洋)

#### ウ タイピング練習における効果的な指導方法について (西条)

P検を活用しているが、ここ数年は点の伸びが悪く、平均点が落ちている。今年度授業は週に1時間しかない。生徒が苦手になっている現状を理解して、指導していきたいと考えている。他校の先生方の工夫について教えていただきたい。

タイピングを身に付けさせる上で大事なことは、手元を見させないことだと考えている。4月のはじめは「あいうえお」だけ正確に打たせる練習に取り組ませた。母音さえ覚えてしまえば、かなりタイピングはスムーズになる。こうした練習から今年度は実施している。

(川之江高等学校 教諭 村上 圭次郎)

独自の取組として、サーバーを起動し、タイピングのスコアを記録できるようにしている。生徒は結果をグラフ化してリアルタイムに見たり共有したりできるようにしている。

(北宇和高等学校 教諭 松浦 哲仁)

商業の検定にビジネス文書実務検定があるため、1分での計測、2分での計測、5分での計測と行っている。生徒の集中力を考え、小刻みで取り組ませている。

(小松高等学校 教諭 篠原 義昭)

他の教科の検定の指導などもあり、本校では情報の授業でタイピングの練習は行っていない。

(帝京第五高等学校 教諭 高谷 学)

#### エ 社会と情報におけるプログラミング教育について(新居浜東)

新しい教育課程に向けて研究を進めなければならないと考えている。中学校の実施状況に差があると考えた時に、高校ではスクラッチ、VBA など何に取り組ませるのか、どの辺りを着地点とするのか、生徒の興味を引く方法などたくさんの課題があると思う。先生方のご意見を聞かせていただきたい。

本校は SGH の関係で情報1単位しかなく、プログラミング教育はできていない。しかし、年間の最後に時間があるとき、パソコン科学部で使っている TonyuSystem というものでゲームプログ

ラムを作らせている。10分程度で取り組めるものを用意し、実施している。

(宇和島南中等教育学校 教諭 橋本 潔)

以前の教員のときはHTML言語で指導をしていた。現在の教員はあまりプログラムに触れずに進めている。教員によっても差があるように思う。主に今期はExcelでVBAを軽く触れる程度の指導をしている。

(松山西中等教育学校 教諭 濱岡 周作)

大学生がパソコンを使えないこともある現状で、プログラミングを優先する指導には否定的である。基礎学力はもちろん、Word、Excel、PowerPointを一通り、社会に出て困らないよう教えていくことが重要と考え、指導をしている。地元の企業が求める生徒に合わせたベストを尽くしている。

(土居高等学校 教諭 近藤 忠大)

農業高校であるので、農業情報が代替科目としてある。以前の学校ではWord、Excel、PowerPoint等のほかに、Excelのマクロ機能、VBAの紹介は行っていた。

(大洲農業高等学校 教諭 元山 順)

オ 今後導入される生徒用タブレットの各校受け入れ態勢や指導計画について (小松)

校務支援システムや電子黒板など、後手に回ってしまっている。各校で導入される際に、OSや導入形態など想定しているものがあれば教えていただきたい。

・今後の導入計画などについては、県などから説明があると思う。

校内での研修などは十分に行う必要性を感じている。(松山東高等学校 教諭 友澤 浩司)

タブレットを40台導入しているが、まだ手探りな状態である。自分で作った教材を生徒に見せたり、インターネットを活用したりという使い方が主である。アプリを手ごろなものを探して生徒に見せたりしている。iPadを使っているが、卒業生記念品として、Androidタブレットも何台か導入している。

(土居高等学校 教諭 近藤 忠大)

OBの方から寄付という形で、タブレットを40台導入し、20台ずつ2か所の教室に置いている。少人数の授業で活用してもらうことが目的である。2人1組で使うこともある。活用の目的は、PC教室以外で情報の検索を行うことができるという理由で使われることが多い。情報の授業ではデジタルカメラ機能を使い、使い方に慣れる、撮った写真を自己紹介に使うなど、静止画を使って、ソフトウェアで連続的に再生させ、動画にするなどの体験学習に使っている。

(川之石高等学校 教諭 山内 茂樹)

## カ 校務支援システムの運用状況について（三瓶）

仮想デスクトップ、グループウェアについて校務支援システムや電子黒板など、後手に回ってしまっている。各校で導入される際に、OS や導入形態など想定しているものがあれば教えていただきたい。

管理職の先生方の協力を得て、年度末に同時に校務支援システムが使えるように設定した。校内の先生方は結構な頻度で使ってくれており、掲示板なども活用している。大きな不具合は現状ない。  
(新居浜商業高等学校 教諭 真田 幸治)

仮想デスクトップのグループウェアの掲示板やスケジュールがようやく使われ始めたという状況である。  
(丹原高等学校 教諭 山之内 統文)

従来からグループウェアを利用していたので、旧グループウェアのほうが先生方は慣れており、まだ新しいグループウェアに切り替えは不十分かと思う。基本的な使い方は先生方もわかっているので、今後の習得次第かと思う。  
(松山南高等学校 教諭 鶴久森 晃)

### (3) 指導連絡（愛媛県教育委員会高校教育課 指導主事 野村 竜也）

先生方の熱心な協議、司会の先生の円滑な進行により、多くの意見を聞くことができたことに感謝申し上げます。指導連絡の前に、本日の研究協議について話をさせていただく。まず坂上先生の授業について、先生方の感想にもあったが、刺激的な時間を私も過ごすことができた。教科「情報」が始まり、今年で 15 年になる。これほど授業の内容が変わった教科はないと考えている。15 年前と同じ内容の授業をされている先生はいないのではないかと。他の科目では、教える内容はほぼ同じで、大幅に変わらないこともあるかと思う。情報の 15 年前と現在は全く違い、変わっていったが、大事なものはテクニックだけではない。坂上先生の授業で、信念、コンセプトである対話、メディアリテラシーを教えるということ、授業で頻繁に取り上げていた。どの授業でもそうであるように、与えられた 50 分で、この内容を生徒に伝えるというゴールを明確に示すことの重要性を感じた。どうしてもプログラミングであると、どの言語やソフトを使うかということにとらわれてしまう。しかし、授業を通してどのような力を身に付けるのかというゴールを明確にすることが大事である。今回の授業であればメディアリテラシー、対話、自分の意見を一方的にいうわけではなく、少数の意見を尊重することなどの部分が重要であったかと思う。多数の意見を重要視するだけなら、これからの時代は AI でできてしまう。そうではなく、授業をする中で、3、40 人が同じ時間を過ごす環境でしかできないことをするべきである。タイピングの練習をしているところもあるかと思うが、それだけしても仕方がない部分もある。一方で、今また違う意味でパソコン離れが進んでいる。ネットを検索するのはパソコンよりスマートフォンである。我々の実社会でパソコンがない職場があるかということ、首をかしげるところである。そうすると、キーボード離れを食い止めるために、タイピング練習も重要である。生徒の状況をよく見て、対面する生徒にとって何が重要かを見つける。加えて、教科書や指導要領にあるコンセプトに外れてはいけない。先生方のより一層の研究をお願いしたい。中にはアクティブ・ラーニングの話もあった。これも先ほどと関連するが、テクニ

ックではない。グループ学習や話し合いだけではないということは特に拠点校を中心に多く研究されていると思う。アクティブ・ラーニングという言葉が独り歩きしないよう、国のほうで主体的、対話的で深い学び、いわゆるアクティブ・ラーニングという言い回しをしている。先ほど坂上先生の授業にあったが、対話が大切である。要は全く関連性がないものをいかに関連付けて結び付けて新しい答えを出していくかに学校教育の重要性がある。学校でしかできないこと、知識の詰め込みだけでは学校はいらぬという意見もある。学校という組織があり、クラス、講座、時間割があり、その時間に集団が集まり学びがあるということはどういうことか、今一度振り返り、対話的、深い学びとはどういうものか、さらに研究を深めていただきたい。

研究協議についてであるが、嬉しい思いを抱いている。過去の情報部会の協議題では、教科に関連しない話が多く挙げられ、ゴールが見えないことが多くあった。今日は、教科「情報」の重要性、指導の内容であったり、過去の変遷であったりなど、教科「情報」の重要性が少しずつ伝わっていると感じている。その中で気になることがあるので、先ほどのタブレットの件について今年の夏から秋にかけて、電子黒板機能付きのプロジェクタについては各学校に1教室、松山東、松山商業については全普通教室に設置をしている。28年度には機器更新において、単焦点の移動式のプロジェクタを導入している。県で整備しているものはこれ以外なく、ご不便をかけている。タブレットを含め、今年度何を整備するかについては、今年度は具体的なものはない。今年度は、昨年度整備したものや、昨年度機器更新したものの活用状況、利用状況、ご意見を踏まえ、今後の整備方針を計画している。その中には、生徒用タブレットであったり、教室に全館 Wi-Fi が必要であったりなど、先生方の声などが大きな参考になるものである。限られた中で優先順位をどうつけるべきかを、我々も先生方、生徒の力になるよう考えております。次は6月に利用状況、電子黒板のご報告をいただく。多くのご意見をいただきたい。6月20日にインタラクティブ学習フェスタを開催する。松山商業、松山東高校や電子黒板の利用状況なども情報交換できればと思っている。タブレットを学校内の私費会計などで購入、整備している学校もあると聞いている。そうした学校も、その学校でしかわからないこともある。ぜひ色々なご意見をいただきたい。

#### 4 閉会行事

高教研情報部会挨拶（今治北高等学校 校長 近藤 実）

全員が発表され、主体的で、対話的で深い研究協議ができたのではないかと思う。得られた内容を持ち帰り、先生方の学校でご活用いただきたい。ご指導いただいた高校教育課の野村指導主事、総合教育センターの松田指導主事に改めてお礼を申し上げます。また、学校訪問の情報分科会に皆様参加されるかと思う。また熱心な協議をお願いしたい。研修の場を提供していただいた新居浜南高校の山本校長先生をはじめ、授業をしていただいた坂上先生、北福先生、ありがとうございました。密度の濃い、良く準備された学ぶところの多い授業であった。最後になるが、教科「情報」の今後の更なる発展を祈念し、挨拶とする。